

営農ウィークリーNEWS

注意!

今年も水稲の宿敵

ミナミアオカメムシを確認

ミナミアオカメムシは、水稲の穂を吸汁して斑点米の原因となる害虫です。暖かい地域に生息するカメムシですが、温暖化に伴い、京都府でも平成22年に伏見区で確認されて以来、毎年、発生しており、斑点米の主要な害虫の1つです。ほかの斑点米カメムシ類に比べて、体が大きく吸汁量が多いため、少数の発生でも被害が大きいと言われています。

管内のミナミアオカメムシは年間3世代発生し、4月下旬～6月下旬までは、河川敷や道路沿いなどのセイヨウカラシナで増殖し、その後、エダマメや水稲を加害し、10月以降は再びセイヨウカラシナに戻ると考えられています。農薬に対しては弱いので、水田での発生期の穂揃期と傾穂期の薬剤散布が有効です。JAでは、今後も、京都府病害虫防除所や普及センターと連携して調査を行い、発生状況を確認し、防除のための情報提供を行っていきます。



セイヨウカラシナで発見されたミナミアオカメムシ (H28. 4. 25 撮影)

平成28年5月1日現在

カメムシ類に登録のある薬剤

薬剤名	希釈倍数・散布量	使用時期	使用回数	使用方法
スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布(湛水)
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布(湛水)
スタークル顆粒水和剤	2000倍、60～150ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
キラップ粒剤	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布
トレボン乳剤	2000倍、60～150ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布
キラップフロアブル	1000～2000倍、60～200ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布
スミチオン乳剤	1000倍、60～150ℓ/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布

* 農薬の使用の際は、必ず表示ラベルをご確認ください。

—TAC information—

農機担当者研修! 「畦塗機」



4月26日 新しい農機担当者2名を対象に、これからシーズンとなる、水田の畦付け作業を行うトラクターアタッチメント「畦塗機」の研修を、クボタアグリサービスの協力のもと実施しました。

実際に、作業を行い、特徴などをしっかりと学びました! 新しい担当者2人の、今後の活躍が期待されます!